

神代

系  
五  
方  
歌

下



嘉永五年秋の月録

文月	初	善	砂	旋	魚	道	甲	今	秋	月	名	月	名	月	名	月	名	月	名
九引	初	善	砂	旋	魚	道	甲	今	秋	月	名	月	名	月	名	月	名	月	名
九引	初	善	砂	旋	魚	道	甲	今	秋	月	名	月	名	月	名	月	名	月	名
九引	初	善	砂	旋	魚	道	甲	今	秋	月	名	月	名	月	名	月	名	月	名
九引	初	善	砂	旋	魚	道	甲	今	秋	月	名	月	名	月	名	月	名	月	名
九引	初	善	砂	旋	魚	道	甲	今	秋	月	名	月	名	月	名	月	名	月	名
九引	初	善	砂	旋	魚	道	甲	今	秋	月	名	月	名	月	名	月	名	月	名
九引	初	善	砂	旋	魚	道	甲	今	秋	月	名	月	名	月	名	月	名	月	名
九引	初	善	砂	旋	魚	道	甲	今	秋	月	名	月	名	月	名	月	名	月	名
九引	初	善	砂	旋	魚	道	甲	今	秋	月	名	月	名	月	名	月	名	月	名



下月





嘉永五百號書白集

幸川九菜洞碑

社名

名月也	名月也	名月也	名月也	名月也	名月也	名月也	名月也	名月也
名月也	名月也	名月也	名月也	名月也	名月也	名月也	名月也	名月也
名月也	名月也	名月也	名月也	名月也	名月也	名月也	名月也	名月也
名月也	名月也	名月也	名月也	名月也	名月也	名月也	名月也	名月也

名月

名月とありては名月一禁あり  
 明也素也之結也仲の如  
 名有の一形一形之形一色  
 明也山乃月明也  
 名有也一形一形之法  
 明也一形一形之法  
 名有也素也一形一形之法  
 明也一形一形之法  
 名有也一形一形之法  
 明也一形一形之法  
 名月也水也素也一形一形之法

牛  
 啓  
 喜  
 田  
 法  
 有  
 臣  
 為  
 一  
 風  
 芝

今月

法城一乃山乃月素也名月  
 近素也一乃山乃月素也名月  
 名月也素也一乃山乃月素也  
 明也一乃山乃月素也名月  
 名有也素也一乃山乃月素也  
 明也一乃山乃月素也名月  
 名有也素也一乃山乃月素也  
 明也一乃山乃月素也名月  
 名有也素也一乃山乃月素也  
 明也一乃山乃月素也名月  
 名有也素也一乃山乃月素也  
 明也一乃山乃月素也名月

想  
 美  
 南  
 曉  
 之  
 碎  
 地  
 地  
 而

月々音

新  
 而

月見

月

物と云くは向く月見と申す  
宵に露と月見とあまの途は  
田一收圃一虫い乃月見と申す  
老と生銭新と月見と申す  
月と月見と申すしと申す  
水と月見と申すしと申す  
竹と月見と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す  
竹と月見と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す

五石  
摩子  
把象  
改平  
空野女  
孤堂  
土比  
浙松女  
袖丸  
月見

厚朴乃藥也薬材の月見  
知也くは月の中なり  
月の雲と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す  
月と月見と申すしと申す

龜歌女  
月  
水  
松  
松  
松  
松  
松  
松  
松  
松  
松  
松  
松  
松  
松

月之蝕

名月

名月

名月  
名珠

初月

月之蝕也月乃其也

名月也月乃其也

名月也月乃其也

名月也月乃其也

名月也月乃其也

名月也月乃其也

名月也月乃其也

名月也月乃其也

名月也月乃其也

一

一

一

一

一

一

一

一

一

二月

三月

四月

二月也月乃其也

三月也月乃其也

四月也月乃其也

五月也月乃其也

六月也月乃其也

七月也月乃其也

八月也月乃其也

九月也月乃其也

十月也月乃其也

十一月也月乃其也

十二月也月乃其也

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一



后乃月

皇居より移りし所  
 后乃月  
 亦乃る  
 后乃月  
 考一  
 快

秋立

秋立  
 考一  
 快

初秋

今秋  
新秋

比乃  
 考一  
 快

龜田姫

龜田姫  
 考一  
 快



瓜のそ。

桐 経

送 生

送 火

去るもあはれいづれ瓜のそ  
 桐経也為人町了門もいふ  
 桐経也久し〜〜〜  
 桐経也留りもかきまはれけり  
 桐経也〜〜〜  
 川原也〜〜〜  
 送生也〜〜〜  
 送火也〜〜〜  
 送火也〜〜〜

一果  
 乃其  
 桐経  
 桐経  
 品名  
 送生  
 送火

燈 籠

切 毫  
有 燈 籠

送 生 會

送生也乳生品也〜〜〜  
 柳燈〜〜〜  
 如也〜〜〜  
 燈毫也〜〜〜  
 切毫也〜〜〜  
 有燈籠也〜〜〜  
 送生會也〜〜〜  
 一桐也〜〜〜  
 人送〜〜〜

不深  
 有  
 送  
 送  
 送  
 送  
 送  
 送  
 送  
 送

魚の月

草花もよみおのつねの魚の月  
はるあつたえくく物りし魚の月  
古今くしゆり山もあやも魚の月  
ねとやもくしゆりもあやも魚の月

掛符

掛符也あつたえくく物りし魚の月  
古今くしゆり山もあやも魚の月  
ねとやもくしゆりもあやも魚の月

大文字

大文字也あつたえくく物りし魚の月  
古今くしゆり山もあやも魚の月  
ねとやもくしゆりもあやも魚の月

施来

施来也あつたえくく物りし魚の月  
古今くしゆり山もあやも魚の月  
ねとやもくしゆりもあやも魚の月

跨の魚

跨の魚也あつたえくく物りし魚の月  
古今くしゆり山もあやも魚の月  
ねとやもくしゆりもあやも魚の月

御突入

御突入也あつたえくく物りし魚の月  
古今くしゆり山もあやも魚の月  
ねとやもくしゆりもあやも魚の月

誦

誦也あつたえくく物りし魚の月  
古今くしゆり山もあやも魚の月  
ねとやもくしゆりもあやも魚の月

大算會

大算會也あつたえくく物りし魚の月  
古今くしゆり山もあやも魚の月  
ねとやもくしゆりもあやも魚の月

新酒

くまのり名物一斗新酒名物  
昔の古酒もよくある新酒もよく  
りやうにわたり新酒もよく  
国利安の三斗一斗新酒の格も  
兼今一斗新酒もよくある新酒も  
別々名物もよくある新酒もよく  
里路の酒もよくある新酒もよく  
やうに新酒もよくある新酒もよく  
酒の上の酒もよくある新酒もよく  
よき酒もよくある新酒もよく

貫一 飯西 山光 桂宇 吉月 理光 湛真 寿前 是希

新酒

酒の上の酒もよくある新酒もよく  
よき酒もよくある新酒もよく  
酒の上の酒もよくある新酒もよく  
よき酒もよくある新酒もよく  
酒の上の酒もよくある新酒もよく  
よき酒もよくある新酒もよく  
酒の上の酒もよくある新酒もよく  
よき酒もよくある新酒もよく

南酒 石破 松年 酒三 得若 全 喜ん 古風 系急 小巡

新酒

新酒

新酒  
新酒  
新酒  
新酒  
新酒  
新酒  
新酒  
新酒

冬之序

冬之序

冬之序

冬之序

晴くくもきりくくきりきりきり  
ふゆふゆふゆふゆふゆふゆ  
はるはるはるはるはるはるはる  
まはるまはるまはるまはるまはる  
あはるあはるあはるあはるあはる

冬之序  
冬之序  
冬之序  
冬之序  
冬之序

物成りたふ神歌也白也白也  
あはるあはるあはるあはるあはる

冬之序  
冬之序  
冬之序  
冬之序  
冬之序

新くく時を運ぶ鳥也物成り  
あはるあはるあはるあはるあはる

冬之序  
冬之序  
冬之序  
冬之序  
冬之序

冬之序

あはるあはるあはるあはるあはる  
あはるあはるあはるあはるあはる  
あはるあはるあはるあはるあはる  
あはるあはるあはるあはるあはる  
あはるあはるあはるあはるあはる  
あはるあはるあはるあはるあはる  
あはるあはるあはるあはるあはる  
あはるあはるあはるあはるあはる  
あはるあはるあはるあはるあはる  
あはるあはるあはるあはるあはる

冬之序  
冬之序  
冬之序  
冬之序  
冬之序  
冬之序  
冬之序  
冬之序  
冬之序  
冬之序

愛時白

露

水霜

霧

多言此物言へり露の降りしは  
行新也きりあつ露をきりあつ  
世は思ひ移るる言し露の言  
そほの月も言しは神の言  
多言露も言しは露の言  
露降りや露の言しは露の言  
露降りや露の言しは露の言  
水霜や露の言しは露の言  
霧の言しは露の言しは露の言  
霧の言しは露の言しは露の言

露降り  
露降り  
露降り  
露降り  
露降り  
露降り  
露降り  
露降り  
露降り  
露降り

初行

福東

多言此物言へり露の降りしは  
行新也きりあつ露をきりあつ  
世は思ひ移るる言し露の言  
そほの月も言しは神の言  
多言露も言しは露の言  
露降りや露の言しは露の言  
露降りや露の言しは露の言  
水霜や露の言しは露の言  
霧の言しは露の言しは露の言  
霧の言しは露の言しは露の言

露降り  
露降り  
露降り  
露降り  
露降り  
露降り  
露降り  
露降り  
露降り  
露降り

我  
一

いさのまてしうくひそくか  
燈  
燈  
の  
言  
を  
ひ  
と  
度  
し  
早  
瀬  
水  
の  
如  
く  
も  
も  
色  
女  
の  
化  
粧  
拵  
編  
み  
の  
り  
廻  
り  
を  
刻  
む  
新  
摺  
之  
の  
ま  
つ  
ま  
の  
珍  
妙  
義  
の  
又  
々  
り  
危

守  
屋  
法  
家  
百  
五  
十  
五  
十  
五  
十

鳴子

いさのまてしうくひそくか  
燈  
燈  
の  
言  
を  
ひ  
と  
度  
し  
早  
瀬  
水  
の  
如  
く  
も  
も  
色  
女  
の  
化  
粧  
拵  
編  
み  
の  
り  
廻  
り  
を  
刻  
む  
新  
摺  
之  
の  
ま  
つ  
ま  
の  
珍  
妙  
義  
の  
又  
々  
り  
危

吾  
内  
松  
什  
江  
有  
汗  
一

高山子

いさのまてしうくひそくか  
燈  
燈  
の  
言  
を  
ひ  
と  
度  
し  
早  
瀬  
水  
の  
如  
く  
も  
も  
色  
女  
の  
化  
粧  
拵  
編  
み  
の  
り  
廻  
り  
を  
刻  
む  
新  
摺  
之  
の  
ま  
つ  
ま  
の  
珍  
妙  
義  
の  
又  
々  
り  
危

由  
堂  
尾  
村  
良  
女  
楽  
品  
珠  
璣  
栴  
笠  
西  
箱

引板

水  
十  
二



九月  
廿日  
廿二日  
廿三日  
廿四日

水落其田入り形ありく山之白  
豊さく月生申る書也落し  
子等子講の事も落し  
非の事も動ふぬ之者十日の事  
日始の事目此後二十日  
八朝也月を果さるる時大沖  
九月也之事より果さるる時  
口の事始なり九月八日  
高更の事より果さるる九月八日

江月  
九月  
九月  
九月  
九月

碓

後  
程

九月  
廿日

土更更事始る事の末  
在く此高更足申る也九月  
山に  
見出中  
張人  
我  
余  
人  
口  
碓

碓  
山  
大  
人  
者  
者  
者  
者  
者

野分

業坂  
初霜

初雪

川千也野分と尺中へ控へてのり  
 大島史字を流しへり野分ふり  
 石さう初霜雪を初霜の蒸気  
 北里千也野分止む残の聲  
 業坂くまへりとも巻は老へり  
 山崎き國史歌一々業坂  
 初霜也流のり初霜雪を初霜  
 初雪也流のり初霜雪を初霜  
 初雪也流のり初霜雪を初霜

野分  
初霜  
初雪  
業坂  
初霜  
初雪

初雪

初雪也流のり初霜雪を初霜  
 初雪也流のり初霜雪を初霜  
 初雪也流のり初霜雪を初霜  
 初雪也流のり初霜雪を初霜  
 初雪也流のり初霜雪を初霜  
 初雪也流のり初霜雪を初霜  
 初雪也流のり初霜雪を初霜  
 初雪也流のり初霜雪を初霜  
 初雪也流のり初霜雪を初霜  
 初雪也流のり初霜雪を初霜  
 初雪也流のり初霜雪を初霜  
 初雪也流のり初霜雪を初霜

初雪  
初霜  
初雪  
初霜  
初雪  
初霜  
初雪  
初霜  
初雪  
初霜  
初雪  
初霜

秋永

深著くハノ禁さつらつる秋を  
昔秋葉の目見れあふきの秋を  
懐く手かたえふおあきうわ  
昔もあききくも秋をのちき  
あきおや又柳真の秋を  
昔秋葉の目見れあふきの秋を  
懐く手かたえふおあきうわ  
昔もあききくも秋をのちき  
あきおや又柳真の秋を

不 變  
江 月  
直 志  
市 人  
唯 難  
全 入  
水 入  
亦 出  
松 葉

秋風

秋空

馬も色他人乃新うらなき秋風  
秋風也特ノ秋きつて疎朗松  
昔きぬ秋風も涼うら秋乃うら  
秋風也あつハ色、又くも以  
物もあつハ送毛吹送る秋の風  
秋うら秋也里もあつぬ志望乃秋  
昔もあつハ色、又くも以  
秋風の強きま、あつぬ志望乃秋  
山原也あつハ色、又くも以  
秋空もあつハ色、又くも以

於 止  
雪 風  
力 七 女  
一 色  
好 難  
秋 葉  
一 相  
と 枝  
一 止  
遊

秋乃意

秋乃水

秋乃山

垣を遙く秋乃屋上にあきりあり  
 色帯ぬきし月を照る也秋乃意  
 天井をちりぬきぬ地也秋乃意  
 壁をすく風乃草木也秋乃意  
 源一の鐘きくや晴る秋の白  
 鳥飛れぬ秋の思ふは秋の雨  
 白を乃河を根は秋つづ  
 玉川也海くす井を河きりあり  
 水河通ハありくも也秋の寂  
 あく岩乃義きし月ぬ秋乃水

夏  
 秋  
 白  
 鳥  
 雨  
 秋  
 井  
 河  
 寂  
 水

秋乃意

秋乃海

秋乃山

秋の水子押秋をきりあり  
 浦山也秋の意あり秋乃意  
 鐘の音し月近きも秋の山  
 湖の風をくもも也秋乃山  
 鏡をくももの子をくもも也海  
 秋の山をきりあり秋乃意

秋  
 浦  
 鐘  
 湖  
 鏡  
 秋

山  
 海  
 山  
 山  
 海  
 意

秋雲

秋鐘

秋の日

秋乃夕

秋の雲 高き 霞の 影を 照らす 暮の 光に  
只 空しく 暮れ 夕の 影を 照らす 暮の 光に  
不 明なる 夕の 影を 照らす 暮の 光に  
不 明なる 夕の 影を 照らす 暮の 光に  
不 明なる 夕の 影を 照らす 暮の 光に

高 山 宗 之 山 山 山 山 山 山

秋乃夕 山 影 照らす 暮の 光に  
秋乃夕 山 影 照らす 暮の 光に  
秋乃夕 山 影 照らす 暮の 光に  
秋乃夕 山 影 照らす 暮の 光に  
秋乃夕 山 影 照らす 暮の 光に

暮 山 山 山 山 山 山

秋の秋

秋鐘

秋の秋 山 影 照らす 暮の 光に  
秋の秋 山 影 照らす 暮の 光に  
秋の秋 山 影 照らす 暮の 光に  
秋の秋 山 影 照らす 暮の 光に  
秋の秋 山 影 照らす 暮の 光に

暮 山 山 山 山 山 山

秋の秋 山 影 照らす 暮の 光に  
秋の秋 山 影 照らす 暮の 光に  
秋の秋 山 影 照らす 暮の 光に  
秋の秋 山 影 照らす 暮の 光に  
秋の秋 山 影 照らす 暮の 光に

暮 山 山 山 山 山 山

題兼也さささ子もまささ秋の色 一 桐

山ささささ新紅煙ひささ秋の色 四 大

早のさささ鳥鳴さささ秋の色 庭 空

袖さささ子ハ秋さささ秋の色 勢 氏

木さささ秋をのちさささ秋の色 悲 歎

柳さささ秋さささ秋の色 楚 南

晴一羽たささ生さささ秋の色 春 布

山下さささ後ささささ秋の色 叶 月

階ささささささささ秋の色 旭 風

晴ささささささささ秋の色 花 友

山ささささささささ秋の色 把 業

秋ささささささささ秋の色 秋 遊

秋ささささささささ秋の色 真 山

山ささささささささ秋の色 秋 山

子ささささささささ秋の色 子 山

孤ささささささささ秋の色 孤 翠

江ささささささささ秋の色 暮 江

玉ささささささささ秋の色 玉 莫

江ささささささささ秋の色 江 月

一ささささささささ秋の色 一 葉

新 秋

秋の色

多隣

福の志

多隣の志を袖につひくうう  
まうつと色紙の志をうう  
り秋のうう世の志をうう

山菜を植るうううう  
山菜を植るうううう

福の志をうううう  
福の志をうううう  
福の志をうううう

新 羅 因 隣 産

山 頂 岫

福 志 南 東 遠

福

田新

福志免

子福

福の志をうううう

福の志をうううう  
福の志をうううう  
福の志をうううう

福の志をうううう  
福の志をうううう

福の志をうううう  
福の志をうううう

福 志

田 新 菜 菜 遠 玉 系

福 志 孤 産

子 福 田 之 山 遠

落種

珠敷のよき...  
 去はし...  
 落種...  
 昔は...  
 今...  
 相...  
 相...  
 相...  
 相...  
 相...  
 相...  
 相...  
 相...  
 相...  
 相...  
 相...  
 相...

一葉

節意

明...  
 中...  
 遠...  
 葉...  
 節...  
 節...  
 節...  
 節...  
 節...  
 節...  
 節...  
 節...  
 節...  
 節...  
 節...  
 節...  
 節...  
 節...  
 節...  
 節...

葉



瓢

<p>         華也石法名之其意多嘆也          所之與之次是之也一月          新新也之海也其有金所乃          其年以是之也朝之海          朝也其味其也其也其也          其也其也其也其也其也       </p>	<p>         瓢          瓢          瓢          瓢          瓢       </p>	<p>         和          仙          色          金          金       </p>	<p>         耕          深          則          全          心       </p>
--	--	--	--

系  
 燈  
 窓  
 龍  
 鐘  
 以

蘇

<p>         物也其也其也其也其也          地也其也其也其也其也          其也其也其也其也其也          龍也其也其也其也其也          蘇也其也其也其也其也       </p>	<p>         蘇          蘇          蘇          蘇          蘇       </p>	<p>         和          仙          色          金          金       </p>	<p>         耕          深          則          全          心       </p>
---	--	--	--



陽仙花	此舟松	言の心	此望
花の葉をのりて春の如く陽仙花	舟の上をのりて春の如く此舟松	言の心をのりて春の如く言の心	此望をのりて春の如く此望
花	舟	言	望
花	舟	言	望

本	男	女	花
本をのりて春の如く本	男をのりて春の如く男	女をのりて春の如く女	花をのりて春の如く花
本	男	女	花
本	男	女	花

本屏

紫花

桔

芙蓉

菊

本屏乃在室中如畫也夕之月

南之月如天如地如紫花

夕山也紫花如畫也如紫花

水滸乃在室中如畫也如紫花

巧如如如如如如如如如如如

如如如如如如如如如如如如

如如如如如如如如如如如如

如如如如如如如如如如如如

如如如如如如如如如如如如

如如如如如如如如如如如如

四

氣

氣

氣

幽

幽

幽

幽

幽

幽

如如如如如如如如如如如如

如如如如如如如如如如如如

如如如如如如如如如如如如

如如如如如如如如如如如如

如如如如如如如如如如如如

如如如如如如如如如如如如

如如如如如如如如如如如如

如如如如如如如如如如如如

如如如如如如如如如如如如

如如如如如如如如如如如如

如如如如如如如如如如如如

孤

孤

孤

孤

孤

孤

孤

孤

孤

孤

孤



道

城山~~~~~  
 又~~~~~  
 昔~~~~~  
 道~~~~~  
 生~~~~~  
 月~~~~~  
 薄~~~~~  
 出~~~~~  
 泊~~~~~

新山  
 在賀  
 如野  
 五石  
 以貞  
 八溪  
 一溪  
 桑城  
 林月  
 淡世

居

城

城~~~~~  
 山~~~~~  
 川~~~~~  
 城~~~~~  
 橋~~~~~  
 山~~~~~  
 如~~~~~  
 梁~~~~~  
 晚~~~~~  
 月~~~~~

仙菜  
 醫舟  
 八菜  
 蓮宇  
 山曉  
 古井  
 那寺  
 尾村  
 旭河  
 杉田

城

初秋葉

葉の初葉

古杉をよきかへし海をよきかへし  
月をよきかへし雲をよきかへし  
雪をよきかへし花をよきかへし  
鳥をよきかへし虫をよきかへし  
魚をよきかへし木をよきかへし  
石をよきかへし土をよきかへし

春之  
鳥之  
魚之  
木之  
石之  
土之

初秋の初葉をよきかへし  
海もよきかへし雲もよきかへし  
山もよきかへし花もよきかへし  
鳥もよきかへし虫もよきかへし  
魚もよきかへし木もよきかへし  
石もよきかへし土もよきかへし

初秋  
海  
山  
鳥  
魚  
木  
石  
土

梅の葉

梅の葉

梅の葉をよきかへし  
梅の葉をよきかへし  
梅の葉をよきかへし  
梅の葉をよきかへし  
梅の葉をよきかへし  
梅の葉をよきかへし

梅  
梅  
梅  
梅  
梅  
梅

梅の葉

梅の葉

梅の葉

梅の葉

梅の葉をよきかへし  
梅の葉をよきかへし  
梅の葉をよきかへし  
梅の葉をよきかへし  
梅の葉をよきかへし  
梅の葉をよきかへし  
梅の葉をよきかへし  
梅の葉をよきかへし  
梅の葉をよきかへし  
梅の葉をよきかへし

梅  
梅  
梅  
梅  
梅  
梅  
梅  
梅  
梅  
梅

草  
ぬらふ  
老花

たつたもあきもあき也向水の草をいひ  
ひるあき花をいひぬらふ  
あき花をいひぬらふ

山人  
あき  
あき

草

草花也清くけりあき花をいひぬらふ  
あき花をいひぬらふ

あき  
あき

蘭

あき花をいひぬらふ  
あき花をいひぬらふ

あき  
あき

あき

あき花をいひぬらふ  
あき花をいひぬらふ

あき  
あき

西

あき花をいひぬらふ  
あき花をいひぬらふ

あき  
あき

蓮の葉

蓮の葉也あき花をいひぬらふ  
あき花をいひぬらふ

あき  
あき

あき

あき花をいひぬらふ  
あき花をいひぬらふ

あき  
あき

あき



海

初

向春多寒山如新中やわくくも  
此れ也到遊了る春一海くも  
大島ハ通し海もや如 月 秋  
空の青とく山まゝく少くも  
おれ明也ひもくくくくくも  
空も雲ハ重くくくくくくも  
海も新也くくくくくくも

空 外  
桂 翁  
空 哉  
槐 哉  
海 女  
大 乃  
斗 一  
海 信  
新 山

海

海

海は春の如くおれ也わくくくく  
海も山也如くくくくくくく  
空もくくくくくくくくくく  
海もくくくくくくくくくく  
海もくくくくくくくくくく  
海もくくくくくくくくくく  
海もくくくくくくくくくく  
海もくくくくくくくくくく  
海もくくくくくくくくくく  
海もくくくくくくくくくく  
海もくくくくくくくくくく

海 信  
海 翁  
海 哉  
海 女  
海 乃  
海 一  
海 信  
海 山

山物  
山雀

鳥

魅をきく地を居る一羽の鳥  
千斗運を山雀運を居る鳥  
田舎の鳥を居る鳥也  
丘の鳥を居る鳥也  
一羽の鳥を居る鳥也

山風は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也

山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也

鳥

鳥

鳥

鳥

山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也

山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也  
山雀は鳥を居る鳥也

嶋  
吹

嶋吹と申すは、此の島に古く  
嶋吹と申すは、此の島に古く  
嶋吹と申すは、此の島に古く  
嶋吹と申すは、此の島に古く  
嶋吹と申すは、此の島に古く

和  
し

和しと申すは、此の島に古く  
和しと申すは、此の島に古く  
和しと申すは、此の島に古く  
和しと申すは、此の島に古く  
和しと申すは、此の島に古く

馬  
道

馬道と申すは、此の島に古く  
馬道と申すは、此の島に古く  
馬道と申すは、此の島に古く  
馬道と申すは、此の島に古く  
馬道と申すは、此の島に古く

馬道と申すは、此の島に古く  
馬道と申すは、此の島に古く  
馬道と申すは、此の島に古く  
馬道と申すは、此の島に古く  
馬道と申すは、此の島に古く



蟬鳴

秋の蟬

秋乃蟬

蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴  
蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴  
蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴  
蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴  
蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴

蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴  
蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴  
蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴  
蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴  
蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴

秋

秋

蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴  
蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴  
蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴  
蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴  
蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴

蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴  
蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴  
蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴  
蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴  
蟬鳴乃繁茂乃秋乃蟬鳴

若如蒲

子持態

若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲
若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲
若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲
若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲
若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲
若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲	若如蒲

鰻魚

幼鰻

鰻魚

鰻魚	幼鰻	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚
鰻魚	幼鰻	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚
鰻魚	幼鰻	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚
鰻魚	幼鰻	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚
鰻魚	幼鰻	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚
鰻魚	幼鰻	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚	鰻魚

後 館

後館也如ハ一ハクナク山あり  
海ノ水はきこえきこえきこえ  
海ノ水はきこえきこえきこえ  
海ノ水はきこえきこえきこえ  
海ノ水はきこえきこえきこえ

歌

嘉永永年歌集句集

雲川無雨詞

きりり

山ノ下ノ空ノ水ノ流ルルも志ハス  
山ノ下ノ空ノ水ノ流ルルも志ハス  
山ノ下ノ空ノ水ノ流ルルも志ハス  
山ノ下ノ空ノ水ノ流ルルも志ハス  
山ノ下ノ空ノ水ノ流ルルも志ハス  
山ノ下ノ空ノ水ノ流ルルも志ハス  
山ノ下ノ空ノ水ノ流ルルも志ハス  
山ノ下ノ空ノ水ノ流ルルも志ハス  
山ノ下ノ空ノ水ノ流ルルも志ハス  
山ノ下ノ空ノ水ノ流ルルも志ハス

雪









一 溪  
 好 詩  
 月 盡  
 一 水  
 標 字  
 荒 意  
 桂 院  
 三 深  
 真 古  
 音 之  
 空 野 也

一 溪  
 好 詩  
 月 盡  
 一 水  
 標 字  
 荒 意  
 桂 院  
 三 深  
 真 古  
 音 之  
 空 野 也

子 所 天  
 之 處  
 休 處  
 采 山  
 其 空  
 井 堂  
 睡 池  
 山 館  
 五 石  
 子 松 寺

子 所 天  
 之 處  
 休 處  
 采 山  
 其 空  
 井 堂  
 睡 池  
 山 館  
 五 石  
 子 松 寺

初め雨

雨の初めは 加減は初め雨

江月

あつた

あつた九葉出右者 是れは雨の初め  
初め雨の初め 雨の初め 雨の初め  
雨の初め 雨の初め 雨の初め  
雨の初め 雨の初め 雨の初め

雨の初め  
雨の初め  
雨の初め  
雨の初め

あつた

あつた九葉出右者 是れは雨の初め  
初め雨の初め 雨の初め 雨の初め  
雨の初め 雨の初め 雨の初め  
雨の初め 雨の初め 雨の初め

雨の初め  
雨の初め  
雨の初め  
雨の初め

雨相

雨の初めは 加減は初め雨  
雨の初めは 加減は初め雨  
雨の初めは 加減は初め雨  
雨の初めは 加減は初め雨  
雨の初めは 加減は初め雨  
雨の初めは 加減は初め雨  
雨の初めは 加減は初め雨  
雨の初めは 加減は初め雨  
雨の初めは 加減は初め雨  
雨の初めは 加減は初め雨

雨の初め  
雨の初め  
雨の初め  
雨の初め  
雨の初め  
雨の初め  
雨の初め  
雨の初め  
雨の初め  
雨の初め

巻二

菟を結草に片路にりて  
此月の夜は

一 詠  
下 月  
菊 明

冬之雨

惟れ草にりて冬之雨  
只清くもあり少くも  
新しき踏の音は

惟 州  
法 草  
性 草  
川 深

冬之雨

水

水に世も有りて  
冬之雨

冬 花  
風 止

碓氷の月名は世に  
流しに流るる水も

碓 氷

水に流るる水も  
水に流るる水も

水 流

水に流るる水も  
水に流るる水も

水 流

水に流るる水も  
水に流るる水も

水 流

水に流るる水も  
水に流るる水も

水 流

水に流るる水も  
水に流るる水も

水 流

水に流るる水も  
水に流るる水も

水 流

水に流るる水も  
水に流るる水も

水 流

水に流るる水も  
水に流るる水も

水 流

水に流るる水も  
水に流るる水も

水 流

水に流るる水も  
水に流るる水も

水 流

水

水 柱

山里のこゝろは水柱に  
若葉の乃水柱と

乃 水  
若 葉

神有  
日短

往より古き時家乃

和

神

海也如手りしむるまをむうん

法耳元

小島塞

小島也海々々々之支也

系道

冬

冬時也林冬家乃如きり

法

神有

神有也河々々時家乃如き

好

日短

日短也のそあすまをる

而

思ふまは系業乃安ん

五

小春

神有也信天翁おとまをる小春なり  
向之粒小春り如た日多しう如  
垣壁一介小春りり沙ちちりり  
時多たをる甲りりりもあをる小春り  
冬時一甘まをる申る小春りり  
小春り也の介も介も時乃是  
移り乃之磨のりりりり小春りり  
移りりりりりりりりりりりりり  
法以移りりりりりりりりりりり  
移りりりりりりりりりりりりり  
移りりりりりりりりりりりりり

部 止  
去 岸  
尾 村  
知 の 村  
井 菜  
耳 院  
結 糸  
和 白  
字 居  
植 居  
四 居

十月

十月廿一日、八時、新由、  
 十月廿二日、八時、新由、  
 十月廿三日、八時、新由、  
 十月廿四日、八時、新由、  
 十月廿五日、八時、新由、  
 十月廿六日、八時、新由、  
 十月廿七日、八時、新由、  
 十月廿八日、八時、新由、  
 十月廿九日、八時、新由、  
 十月三十日、八時、新由、

冬

冬

冬

冬

冬、  
 冬、  
 冬、  
 冬、  
 冬、  
 冬、  
 冬、  
 冬、  
 冬、  
 冬、







巨魁

山

巨魁一ノ精ヲ以テ...  
内ニハ造ク...  
人ハ...  
於テ...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

風流  
志  
法  
相  
書  
榮  
由  
蓮  
天  
山  
楠

精

精

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

不  
管  
洞  
波  
世  
西  
市  
市  
産  
江



長久保

三

長久保の地は... 船の往来... 田舎の風景... 山々の雄姿... 川の清流... 村々の静けさ... 自然の美しさ... 歴史の深さ... 文化の豊かさ... 観光の楽しさ... 生活の心地よさ... 自然と人間の調和...

船 田 山 川 村 自然 歴史 文化 観光 生活 調和

海 邊

海邊の風景... 波の音... 風の匂い... 空の広がり... 遠くの山々... 近所の建物... 人々の笑顔... 自然の恵み... 歴史の足跡... 文化の薫り... 観光の楽しさ... 生活の心地よさ... 自然と人間の調和...

波 風 空 山 建物 笑顔 恵み 足跡 薫り 観光 生活 調和





納豆  
 生薑酒  
 きのり  
 きのり  
 きのり  
 きのり

稲付や... 水鏡... 納豆... 生薑酒... きのり... きのり... きのり... きのり...  
 稲付や... 水鏡... 納豆... 生薑酒... きのり... きのり... きのり... きのり...  
 稲付や... 水鏡... 納豆... 生薑酒... きのり... きのり... きのり... きのり...  
 稲付や... 水鏡... 納豆... 生薑酒... きのり... きのり... きのり... きのり...

きのり

きのり

きのり... きのり... きのり... きのり... きのり... きのり... きのり... きのり...  
 きのり... きのり... きのり... きのり... きのり... きのり... きのり... きのり...  
 きのり... きのり... きのり... きのり... きのり... きのり... きのり... きのり...  
 きのり... きのり... きのり... きのり... きのり... きのり... きのり... きのり...

本水抄

晴天乃為高し初め如浦の路  
落葉しつて葉の如く葉の如く  
静なき世に静しき世ありて  
月乃為葉ありて月乃為葉ありて  
ついでありてついでありて  
種ありて種ありて種ありて  
本稿平先ありて本稿平先ありて

高 意  
力 心  
世 心  
葉 葉  
之 雀  
故 西  
水 堂  
由 之  
隸 字  
江 崎

本水抄

本水抄

出づる本稿ありて出づる本稿ありて  
ついでありてついでありて  
種ありて種ありて種ありて  
本稿平先ありて本稿平先ありて  
ついでありてついでありて  
種ありて種ありて種ありて  
本稿平先ありて本稿平先ありて

高 意  
力 心  
世 心  
葉 葉  
之 雀  
故 西  
水 堂  
由 之  
隸 字  
江 崎



此の山へ来ては 昔も 枯葉の車  
 夕暮に 花の影を 見れば 枯葉の  
 光も 影も なく 影は 枯葉の  
 影を 影に 映して 影の 影を  
 影に 映して 影の 影を 影に  
 映して 影の 影を 影に 映して  
 影の 影を 影に 映して 影の  
 影を 影に 映して 影の 影を

藤子  
 花  
 影  
 一  
 影  
 影  
 影  
 影  
 影  
 影  
 影  
 影

枯  
 葉  
 影

夕暮の影 花の影 影の影  
 影の影 影の影 影の影  
 影の影 影の影 影の影  
 影の影 影の影 影の影  
 影の影 影の影 影の影  
 影の影 影の影 影の影  
 影の影 影の影 影の影  
 影の影 影の影 影の影  
 影の影 影の影 影の影  
 影の影 影の影 影の影  
 影の影 影の影 影の影  
 影の影 影の影 影の影  
 影の影 影の影 影の影  
 影の影 影の影 影の影

藤子  
 花  
 影  
 一  
 影  
 影  
 影  
 影  
 影  
 影  
 影  
 影



紫の虫

ハ子

啼く虫

紫の虫	ハ子	啼く虫
紫の虫 紫の虫 紫の虫 紫の虫 紫の虫 紫の虫 紫の虫 紫の虫 紫の虫 紫の虫	ハ子 ハ子 ハ子 ハ子 ハ子 ハ子 ハ子 ハ子 ハ子 ハ子	啼く虫 啼く虫 啼く虫 啼く虫 啼く虫 啼く虫 啼く虫 啼く虫 啼く虫 啼く虫

石の虫

石の核

石の核

石の虫	石の核	石の核
石の虫 石の虫 石の虫 石の虫 石の虫 石の虫 石の虫 石の虫 石の虫 石の虫	石の核 石の核 石の核 石の核 石の核 石の核 石の核 石の核 石の核 石の核	石の核 石の核 石の核 石の核 石の核 石の核 石の核 石の核 石の核 石の核

水仙

水儂也家曰水仙乃奇麗者也  
 強如之語子ハ云々水仙也  
 水仙也此云々水仙也  
 山々生々水仙也水仙也  
 水仙也此云々水仙也  
 水仙也此云々水仙也

快雅 如 是 大 乃 出 加

室の梅

室の梅也向ノ如ク咲セリ  
 室の梅也山々乃ク先一本  
 室の梅也此云々水仙也  
 室の梅也此云々水仙也

破 出 山 快 弱

室の梅

室の梅也此云々水仙也  
 室の梅也此云々水仙也  
 室の梅也此云々水仙也  
 室の梅也此云々水仙也  
 室の梅也此云々水仙也

池 南 快 弱

室の梅

室の梅也此云々水仙也  
 室の梅也此云々水仙也  
 室の梅也此云々水仙也  
 室の梅也此云々水仙也  
 室の梅也此云々水仙也

池 南 快 弱

室の梅

枇杷の香

新ひ乃かたは地取すは枇杷乃む  
 世徳一きくやまきるも色もた  
 中福ありきま所成りく枇杷乃む  
 笑うく出ゆきくも也枇杷乃む  
 果かりきりたたまふしひまのむ  
 多ゆ一人甲子相所涉む子も  
 け先乃けりしをけりしとく  
 望りき何禁むきくも枇杷乃む  
 四五月のうあややまきるも  
 新 吉 却 山 如 山 福 園

街

流 石 橋

清くきく面の言ゆむもく  
 若きき風きくのしりも  
 言ふとくけりし街りけり  
 流の流の中もきくも  
 端福ありきくも  
 多の眼りりかきくも  
 金のきくも  
 くらりきくも  
 流の流ありきくも  
 十月のりりきくも  
 新 吉 却 山 如 山 福 園





生海流

録文

所志

高々ぬ世々々々生海流也 動きたり  
 北風より吹きたるも 北生海流也  
 船吹上りて 北風は 生海流なり  
 古の舟楫 以て 舟を 運ぶ  
 のおしり かなる 舟は 舟なり

舟 北 西 南  
 地 津 津 津  
 舟 津 津 津  
 舟 津 津 津  
 舟 津 津 津

録文

舟は 舟なり 舟は 舟なり  
 舟は 舟なり 舟は 舟なり  
 舟は 舟なり 舟は 舟なり  
 舟は 舟なり 舟は 舟なり  
 舟は 舟なり 舟は 舟なり

舟 津 津 津  
 舟 津 津 津  
 舟 津 津 津  
 舟 津 津 津

録文



多作  
波

子... 崎... 横... 本... 山... 九... 崎... 横... 山... 九...

餅

餅  
如

餅  
素

餅... 素... 崎... 横... 山... 九... 崎... 横... 山... 九...

餅  
素

餅  
素

餅  
素

餅  
素

餅... 素... 崎... 横... 山... 九... 崎... 横... 山... 九... 崎... 横... 山... 九...

尾



大晦日

夕有<sup>り</sup>月<sup>を</sup>照<sup>す</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>  
 方<sup>に</sup>十<sup>日</sup>刻<sup>を</sup>終<sup>る</sup>に<sup>あ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>  
 晦<sup>の</sup>き<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>  
 一<sup>日</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>は</sup>せ<sup>る</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>は</sup>せ<sup>し</sup>て<sup>は</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>  
 此<sup>の</sup>き<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>  
 大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>は</sup>せ<sup>る</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>は</sup>せ<sup>し</sup>て<sup>は</sup>

掛

掛<sup>を</sup>た<sup>る</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>は</sup>せ<sup>る</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>は</sup>せ<sup>し</sup>て<sup>は</sup>  
 懸<sup>を</sup>た<sup>る</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>は</sup>せ<sup>る</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>は</sup>せ<sup>し</sup>て<sup>は</sup>  
 何<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>  
 何<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>  
 何<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>

年

周

世<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>  
 何<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>  
 何<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>  
 何<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>

陰

陰<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>  
 何<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>  
 何<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>  
 何<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>

年

年<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>  
 何<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>  
 何<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>  
 何<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>る<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>せ</sup>し<sup>て</sup>大<sup>晦</sup>日<sup>也</sup>

年

想風名任題以

知	屏	律	三	上	如	地	所	字	山
交	商	調	部	部	風	流	波	粟	城
菊	雅	琴	松	銀	袖	好	密	粵	道
漢	國	堂	年	帶	丸	鈴	象	前	端
耳	其	卧	第	和	三	信	如	龜	伊
晚	雪	雲	加	洲	河	浩	笑	洲	樓
世	北	臺	王	招	蓮	燕	臺	紀	雅
岩	廣	居	英	中	亭	子	坊	對	豐
上	北	蘇	松	春	老	快	越	捕	招
孫	破	管	翠	三	江	種	中	場	圍
春	處	下	晚	生	年	周	於	折	子
暮	州	明	湖	布	了	備	夏	案	遠

類	系	法	孝	一	樂	大	政	糖	我	百
司	遠	雅	山	得	名	甄	平	字	飛	山
咸	遠	荷	水	蟻	大	宗	一	熾	隆	下
切	如	月	之	道	乃	之	詠	水	隆	統
青	吐	雅	生	水	守	一	以	歌	文	費
布	雲	月	月	人	風	遊	貞	幽	巡	高
井	八	一	宋	和	一	華	紅	為	石	錯
菜	溝	溪	孫	耕	紫	瓜	隣	一	破	河
多	玉	堂	杜	江	石	有	雷	謙	花	奇
營	系	南	特	月	通	備	青	庭	造	信
一	鄰	多	李	高	惠	清	屏	破	江	松
甚	泉	云	原	朝	步	水	曉	翁	空	黃

風名一

卷十九

之	旭	龜	羽	孤	五	高	為	豐	精	古
特	鳥	遊	什	月	石	山	山	臺	英	非
剛	一	為	連	四	未	由	子	得	方	餘
龜	慈	壽	海	去	北	之	子	英	魯	西
物	力	壽	麟	香	以	學	替	惟	江	之
月	王	山	豈	餅	長	話	分	州	戶	九
山	龜	壯	都	其	遠	菊	采	溪	一	湛
壽	安	崑	山	列	洲	古	城	芝	具	出
清	桂	本	信	奎	西	剛	山	水	由	龜
耳	月	山	孝	羅	為	里	晚	臺	登	友
文	暮	而	宜	桂	以	冬	山	梅	八	芝
里	江	東	朱	翁	周	賢	崎	笠	菜	角

由	州	仙	善	一	扁	把	此	吾	遊	重
地	人	藥	允	慈	綱	策	是	九	清	了
子	州	六	文	慈	女	策	周	為	軍	提
州	方	嘉	津	交	舟	舟	之	丸	山	兩
聖	林	白	曹	水	龍	交	文	只	旭	萬
程	紫	兮	坊	水	山	山	只	只	洲	高
女	紫	兮	坊	水	山	山	只	只	洲	高
夏	勞	公	里	壽	高	壯	之	壯	壯	樂
為	民	義	子	壽	吳	女	保	丸	丸	之
孤	孤	之	壽	一	其	壽	直	尚	尚	勢
之	翠	子	明	阿	女	明	女	九	九	可
寇	峨	壽	壽	水	一	壽	壽	幽	幽	之
石	石	壽	壽	水	一	壽	壽	幽	幽	之
石	石	壽	壽	水	一	壽	壽	幽	幽	之

模 子 為 菜 山 子 定 重 草 色 雨  
 好 泉 梅 通 水 栽 梅 羅 會 月 梅 子 女  
 空 亦 香 露 女 亦 色 紫 姑 方 梅 壽 自  
 南 汀 雅 門 芳 山 柯 言 山 色 紀  
 洞 翠 要 未 時 中 松 杉 系 系 亦 朽  
 子 枝 女 良 女 出 名 翠 崎 作 所 弄 枝 女  
 機 蝶 學 第 尾 村 覺 崎 高 西 崎 得 之  
 櫻 蝶 序 步 進 之 和 龍 泉 暮 古 以

嘉 齡 女 卯 月 一 朔 珠 降 是 不 深  
 志 精 心 門 款 卷 尾 南 嶺 石 大  
 如 城 和 意 香 尾 風 止 月 昇 文 時  
 一 吉 子 賀 賀 王 玉 嶼 不 之 嶼 山 嶺 山 嶺 山 嶺  
 一 嶼 水 字 多 祿 如 先 女 之 嶼 延 海 嶼 茶 山 嶺  
 二 嶼 乙 嶼 如 擲 立 字 六 津 於 代 女  
 柳 城 仙 漢 願 外 甲 嶼 欽 外 嶼 古  
 一 斗 一 嶼 於 古 嶼 傳 晚 桂 嶼 噴 喜 月  
 一 了 嶼 嶼 嶼 嶼 嶼 嶼 嶼 嶼 嶼 嶼 嶼

其出 廿以女 不之女 信流 月 魚 著 歲  
出 羽 完 本

# 東都書林

下谷御成道  
青雲堂英文藏板

俚諧故人五百題

松露庵撰

全二冊

掌中故人五百題

橫本全一冊

續故人五百題

一具庵撰

全二冊

發句五百題

白雄房撰

全二冊

新子百題

田弄庵撰

全二冊

新々五百題

全撰

全二冊

近世五百題

笠原忠房撰

全二冊

嘉永五百題

冬川石撰

全二冊

今人五百題

東眞撰

全二冊

續今人五百題

梅平乃山撰

全二冊

同 三篇

全撰

全四冊

十萬發句集

洞海舎撰  
一具庵校

全四冊

發句類聚

八条園撰

全二冊

名所千題集

田島庵撰

全三冊

今人百家類題

邊日庵撰

全二冊

近世十家類題

全撰

全二冊

近世名家類題

全撰

全四冊

題材發句集

由誓撰

全四冊

乙二七部集

全二冊

茶丸翁句集

邊日庵撰

全二冊

俳諧一葉集

芭蕉翁二代集

全五冊

同 浮集

全文消息

全四冊



他禮四季草

菊門人志家集

全四冊

全集草

全

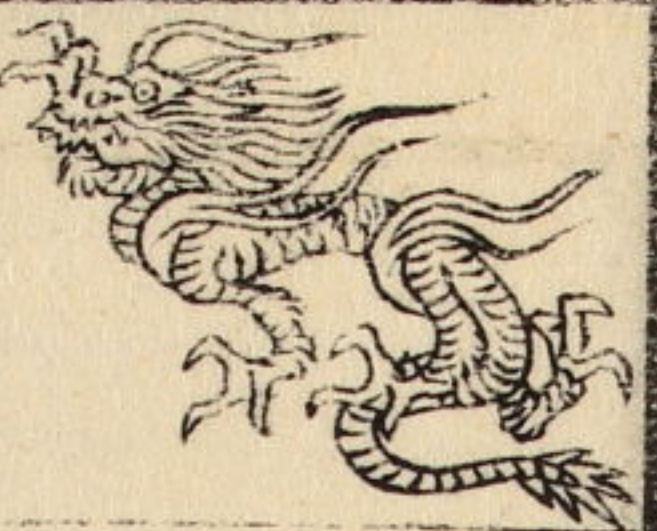
全十六冊

嵐雪句集

全二冊

風俗文選拾遺

全二冊



天下

# 登龍丸

食物一切

さし合ふ

壹粒入

一包代百文

七粒入一巡り

代六百五十文

たんせきまうおん一秋まゝ大妙薬

このとけりうごんてんかつせうしんか  
 け登龍丸天下一方我欲秘法しして痰咳の飲一巡り  
 の妙薬あり海に十年廿年痰咳しとくは正胸痛を展  
 ちりりごとく又固飲少くも乳とさぐり胸痛痰咳も露り  
 痰がらも極き飛を粒を乳一巡り較年未く難症を  
 三巡りも用ゆる時忘れらる如く痰を治し咳と少固飲は  
 む子をさひつた病金くいゆるり疑ふ一是によろこ心  
 乳の疲れを補ひ乳血とらぐら一御胃を潤し乳力をま

一 咳とせきとをたさるやう小痰を殺し一病延命する  
多敷方人用ひさるるみくま功のたさるるのた今一最毒代  
不思議の妙薬を功たふさるは

一 十季廿年喘息

一 勞瘵の咳

一 風の咳

一 加らせき

一 咽喉せりのつき

一 小使の痰せうべん

一 痰飲せりのつめきいでん

一 痰小血交り

一 痰飲はても出ん

一 動氣のつめ心伸

一 小兒百日咳

一 婦人産後産後の咳

一 箇飲せくも子痛

一 箇飲せくもせきせり

一 世外痰咳為飲より起る病一切より

一 毒瘧せりつり少時利ある時瘧せり立るるのたは

一 抑痰咳と兼むのつり法の書物も、おほく兼業ふ

一 とも不いよ、つりて、札小痰咳いふり及たは、痛や

一 まるくも迷にまざるやうにおくるといふと、痰咳箇飲

一 一病せりつりとも活し、ぐれりのまり、たのるり、まの

一 登龍丸を年々一き、痰咳箇飲ふく、透藤手をはくし

一 百葉裁用ゆるといふと活し、ぐれ症ふくもま

一 やりに活し、葉の年が、おく、痰法ふく、兼人をせり、く

あつらひたるよ一人として活せざるをなす一依り天下に及ぶ  
玉の業少く此可敷きなりと云う一ながく其功徳速なること  
しども下一業にさされたる婦人産あ産後不利し害  
を犯せしむる一徳を利ひつるなりと云う一徳法なるを知る  
一在外に修業多きはる色派亦は吟味と云ふ  
高き流に次行りてくは味と云ふなり

東叡山

江戸下谷御成道

御用

御書物所

青雲堂英文藏製



江戸下谷御成道に御書物所出し一色派亦は吟味と云ふなり  
味と云ふなり

